

I K U S E I

わくせいの

2021 59



公益社団法人 競走馬育成協会

# CONTENTS

## ■巻頭言

「ごあいさつ」

(JRA 馬事部部长 吉成公伸) ..... ①

## ■特集

生産育成牧場就業者参入促進事業 (BOKUJOB) ..... ②～⑩

## ■行事

①令和2年度「育成等に関する懇談会」を開催 ..... ⑪～⑬

②令和3年度「定時総会」を開催 ..... ⑭

③令和3年度 競走馬育成協会の組織改正 ..... ⑮

## ■事業

①育成技術講習会 ..... ⑯

②育成技術表彰事業 ..... ⑰～⑱

③軽種馬生産育成強化資金利子補給事業 ..... ⑳

④競馬関連機材等有効活用事業 ..... ㉑～㉓

⑤軽種馬経営高度化指導研修 (人材養成) ..... ㉔

## ■お知らせ

○賛助会員のご紹介 ..... ㉕

## ■巻末

○地方競馬の馬主になりたい (NAR) 告知 ..... ㉖

○装蹄師として馬 (競馬・乗馬) にかかわりませんか! 告知 ..... ㉗

○育成協会人事 (職員異動) ..... ㉘



題字 元会長 小沢一郎  
表紙写真 内藤律子

## ごあいさつ [東京2020オリンピック・パラリンピック]



JRA 馬事部部长  
吉成 公伸

JRA 馬事部の吉成です。本年3月に競走部番組企画室長から現職に就きました。どうぞよろしくお願ひします。8月8日、東京2020オリンピック大会が閉会しました。8月24日からはパラリンピック大会が始まりますが、今回はJRAのこれら大会への取組みをご紹介したいと思います。

オリンピックの馬術競技では、3種目の個人および団体戦に計9人馬が出場し奮闘したなか、総合馬術個人と障害飛越個人でそれぞれ4位および6位入賞を果たしました。実に89年ぶりのことであり、前回は、皆さまご存知のとおり1932年のロサンゼルス大会における西竹一中尉（当時）とウラヌス号が獲得した金メダルでした。今回はメダルに手が届くのかドキドキした方も多いのではないのでしょうか。競技への注目が集まり、馬の美しさ（照明に浮かぶ姿は格別でした）、華麗な動作や力強い躍動感、競技のスリルや面白さ（ダルマや力士の障害は新鮮でした）など魅力を広く知っていただけたと思います。

JRAは、東京2020オリンピック・パラリンピック大会のオフィシャルコントリビューターとして、馬術競技に対して人や施設また財政的な貢献を行っています。新しい馬事公苑の改修や会場としての提供、競技運営の裏方として執務するJRA職員の派遣などに加えて、競技馬の輸送や会場の管理などもJRAの関係団体が担当しています。競技は異なりますが、近代五種競技の貸与馬にはJRAからの派遣馬も含まれています。

また、この他にも東京2020大会を契機として、馬術競技の強化、乗馬普及、馬事振興に関わる種々の取り組みを特別振興事業等を通じて実施しています。例えば、オリンピック・パラリンピックに向けた代表候補人馬の強化、競技の広報・情報発信（グリーンチャンネルでの馬術競技放映もこれです）、馬事公苑が使用できない期間の国内馬術大会開催に対する援助、障害者乗馬やホースセラピーの活動に対する

支援、引退競走馬の利活用促進への支援、馬の多様な利活用モデルの推進などです。

この目的は、自国開催のオリンピック・パラリンピックで好成績を期することは勿論ですが、これを機に、「馬術を知る」「乗馬にチャレンジする」「馬を見に行ってみる」という人が少しでも増えればということもあります。さらに言うなら、すぐに行動に移すことが無かったとしても、馬に対して親近感を持つ人や様々な場面で馬に触れ合う機会が増えること、その種を蒔くということもあります。

昨今、馬の業界でも担い手の不足や産業の安定的発展に対する不安が言われています。競走馬育成協会では、牧場就業促進（BOKUJOBなど）や担い手育成事業（就労者に対する研修会の実施など）により人材の確保に腐心されていると伺っています。こうした、業界の入口周辺まで来た方の誘導、業界に入ってからサポートは効果的なものと思います。先ほど紹介した取組みは、さらに外周を支えるものであり、馬に触れる機会を増やす、馬のサポーターを増やす、さらには世間一般で馬が身近なものとなることを目指しています。こうしたことは、いずれ馬の業界への人材誘導にもよい影響を及ぼすものと考えています。

馬が身近なものとなることは、そう簡単なものではありませんが、今回の東京2020大会を契機として、長期的な視野に立ちJRAのみならず業界全体で取り組んでいけば、素晴らしいオリンピックのレガシーが残されるのではないのでしょうか。会員の皆様におかれましては、JRAの取組みにご理解・ご協力の程よろしくお願ひします。

## 生産育成牧場就業者参入促進事業 (BOKUJOB)

### はじめに

◎平成22年度から地方競馬全国協会が実施しております「競走馬生産振興事業」のうち、経営基盤強化対策事業の軽種馬経営高度化研修事業（人材養成支援）により助成を受け、本誌の事業5にあります生産・育成技術者の海外研修をはじめ、以下の3事業を展開中です。

この中で今回の特集としまして、「3. 生産育成牧場就業者参入」所謂、BOKUJOBに焦点をあてさせていただきます。

1. 生産育成技術者海外派遣事業
2. 修学奨励金交付事業
3. 生産育成牧場就業者参入促進事業

◎これまで軽種馬の育成調教に係わる人材の確保・養成に関する支援策として「生産育成調教牧場への就業者参入促進事業」について、5団体（※参照：JRA、JBBA、BTC、JRHA、TTDA）が牧場就業促進事務局（所謂、BOKUJOB）を構成し、軽種馬の生産育成調教分野で働く人材確保を目的とし、多くの若者に生産育成調教の現場を照会し就業者の参入を促進する施策（2021BOKUJOB活動方針）を実施してきております。

#### ※事務局5団体

- ・日本中央競馬会（JRA）、公益社団法人日本軽種馬協会（JBBA）、公益財団法人軽種馬育成調教センター（BTC）、一般社団法人日本競走馬協会（JRHA）、公益社団法人競走馬育成協会（TTDA）
- ※主な活動方針「フェア開催、Web相談会、牧場向けZoomレクチャー、サポートデスク、体験会、広報活動充実（HP等SNSを活用しイベント等への誘導、関係機関を経由した情報伝達（高校、専門学校等）」

◎生産育成牧場就業者参入促進事業（BOKUJOB）におけるこれまでの取組としては、これまで本誌（いくせい）でもご紹介してきているところではございますが、今回につきましては、昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、従前に展開できてきた取組みが実施できず、新たな取組みについて検討していくことが必要になってきました。

これらを踏まえ令和2年度、令和3年度の取組状況を以下のとおりご紹介させていただきたいと思っております。

### 【令和2年度】

「BOKUJOBメインフェア」「BOKUJOB関西フェア」（合同就業説明会）等令和2年度につきましては新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりその多くの事業の実施を見合わせる結果となりました。

特に例年実施していました若手就業者を募集している牧場と就業希望者が直接会話して交流する「BOKUJOBメインフェア」「BOKUJOB関西フェア」（合同就業説明会）を東京競馬場と阪神競馬場において開催し、軽種馬の生産や育成調教に対する認識を深めてもらうとともに、牧場の仕事に関する説明、作業体験等牧場との懇談、就職進路相談、騎乗技術研修の説明等を行ってききましたが令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の防止の観点から止むを得ず実施を見合わせました。

また、フェアを開催する地域から離れた場所への潜在的ニーズの掘り起こしのため、札幌・中京・小倉の各競馬場・宮崎育成牧場をはじめインターハイ馬術会場や日本学校農業クラブ全国大会へブースを出展する予定でありましたが、これら対面型イベントにつきましても、1月の横浜ホースメッセ以外のブースは取り止めざるを得ない状況となりました（サポートデスク・PRブース等）。

一方で新型コロナウイルス感染症拡大の状況下、実施可能な施策について検討を重ねた結果、ビデオ会議ツール（Zoom）における展開にシフトし「BOKUJOBフェア」に代わり新たに「Web相談会」を企画実施しました。

6月にBTC及びJBBAの研修コース（13名23面談）、9月には牧場就業コース（16名87面談）を実施して好評を得たことから、10月以降についても各牧場に対してWeb上における操作や就業促進方法をレクチャーするとともに、牧場と就業希望者の面談マッチングを行いました。また、秋季以降年間を通じて「Web相談会」を継続的に追加実施しました。

(令和2年6月27、28日：新橋分館内、JBBA、BTC)  
(令和2年9月12、13日：新ひだか町内施設)  
「ご参加：20牧場」

### 「夏休み研修コース体験入学会」「牧場で働こう見学会（関東・関西）」「夏休み牧場で働こう体験会」等

令和2年度につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、「牧場で働こう見学会（関東・関西）」「夏休み牧場で働こう体験会」はやむなく中止といたしました。

「夏休み研修コース体験入学会」については、日程を2泊3日に短縮して1回の参加者を10名に限定したうえで、1回目（7月30日～8月1日）、2回目（8月26日～28日）の2コースに分けて実施し、各コースの参加者研修機関から好評を得ました。

「ご協力：うらかわ優駿ビレッジ AERU」

### 「BOKUJOB2020サポートデスク・PRブース」

令和2年度につきましては新たに1月16日～21日に横浜で行われたホースメッセに出展（PRブース）

し、潜在的な掘り起こし、認知度向上のための広報展開、牧場業務に関する相談を行いました。それ以降につきましては新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、止むを得ず実施を見合わせました。

### 「生産・育成牧場就職応援サイト BOKUJOB.com」の運営

令和2年度については新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場型イベントの実施を取り止めざるを得ない状態になったため、WebでのPR展開（リンクしている関連団体のブログ関連サイトをリニューアルし、BOKUJOBウェブサイトとの親和性をさらに高めることでブログの魅力とサイトへの誘因を図りました。

## 【令和3年度】

### 「BOKUJOB メインフェア」「BOKUJOB 関西フェア」（合同就業説明会）「牧場で働こう見学会」→「Web相談会、Webフェア」

令和3年度につきましても新型コロナウイルスの感染拡大の影響により対面型イベントの実施を見合わせましたが、令和2年から新たに実施しました、ビデオ会議ツール（Zoom）における展開にシフトした「Web相談会」について年間を通じて実施中です。なお、令和3年度につきましては、万全の感染拡大防止に努めた上で、関東サテライト（6月12日、13日）・北海道サテライト（6月19日、20日）でのWeb相談会フェアを開催したところ、全国から39名（139面談）の相談者があり大変好評となりました。

#### 1. 実施概況

「BOKUJOB Web フェア2021」

(1)日時 : ①6月12、13日（土・日）

②6月19、20日（土・日）

(2)場所 : ①関東サテライト

※競走馬育成協会 4F 会議室



関東サテライト  
(競走馬育成協会会議室)

北海道サテライト  
(新ひだか町エクリブスホテル)

②北海道サテライト

※新ひだか町エクリプスホテル

(3)申込者数：39名（総面談数138）

(4)参加牧場、団体：24牧場 + 5 関係団体（JBBA・BTC・北海道静内農業高等学校・日本装蹄協会・BOKUJOB 事務局）

(5)実施内容：ウェビナー配信（YouTube チャンネル上にて配信）web 上での参加申込受付（web 申込ページの開設）web 会議ツール（ZOOM）による、個別面談 面談後のアンケート

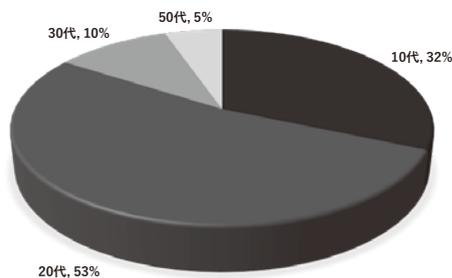
「ご参加：29団体（24牧場）」

（牧場：グランデファーム、ST ウィンファーム、坂東牧場、ダーレー・ジャパン・ファーム、岡田スタッドグループ、岡田牧場、目名共同トレーニングセンター、チャンピオンズファーム、グリーンウッドパーク、下河辺牧場、Tomorrow Farm、ノースヒルズ、ビッグレッドファーム、社台コーポレーション、吉澤ステープル WEST、追分ファーム、大山ヒルズ、フォレストヒル、杵臼牧場、イクタトレーニングファーム、ASK STUD、明治牧場、白井牧場、千代田牧場）

ウェブ相談会フェアアンケート結果

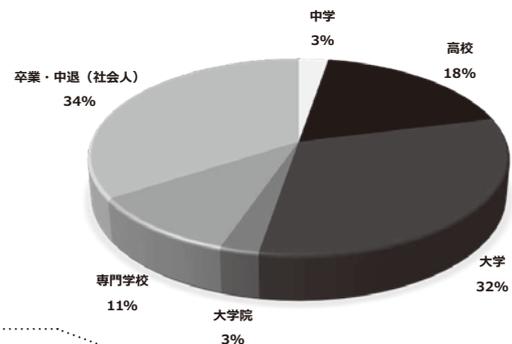
Q.4 年齢

年齢	回答数	世代	回答数	%
14歳	1	10代	12	31.58%
16歳	2			
17歳	2			
18歳	3			
19歳	4			
20歳	5	20代	20	52.63%
21歳	4			
23歳	4			
24歳	4			
26歳	1			
27歳	1	30代	4	10.53%
28歳	1			
30歳	1			
35歳	1			
36歳	1			
39歳	1	50代	2	5.26%
50歳	1			
51歳	1			
合計			38	



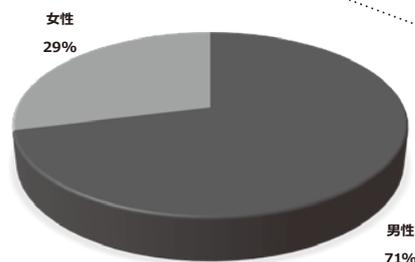
Q.6 学校種別

学校種別	学年	(学年) 回答数	現在	(現在) 回答数	%
中学	1年	0	中学	1	2.63%
	2年	0			
	3年	1			
	卒業	0			
高校	1年	0	高校	7	18.42%
	2年	2			
	3年	5			
	4年	0			
	5年	0			
	卒業	3			
	中退	0			
大学	1年	0	大学	12	31.58%
	2年	1			
	3年	3			
	4年	7			
	5年	0			
	6年	1			
	卒業	9			
	中退	0			
	大学院	1年			
2年		1			
3年		0			
4年		0			
卒業		0			
専門学校	1年	1	専門学校	4	10.53%
	2年	3			
	3年	0			
	4年	0			
	卒業	1			
	中退	0			
合計		38	卒業・中退 (社会人)	13	34.21%
合計				38	



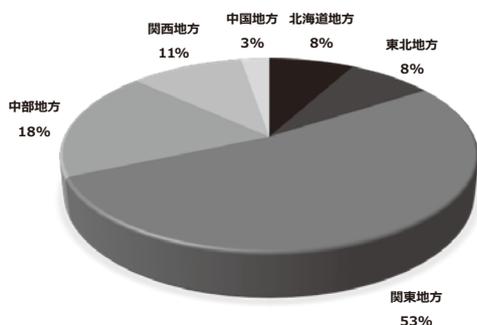
Q.5 性別

性別	回答数	%
男性	27	71.05%
女性	11	28.95%
合計	38	



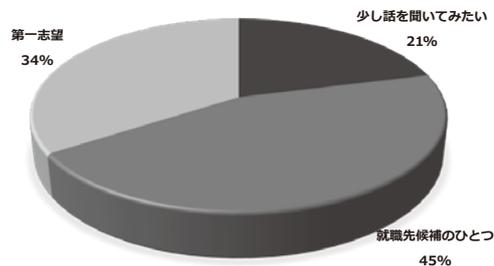
## Q.8 住所

都道府県	回答数	地方	回答数	%
北海道	3	北海道地方	3	7.89%
青森	1	東北地方	3	7.89%
岩手	1			
宮城	1			
栃木	1			
茨城	1	関東地方	20	52.63%
埼玉	4			
千葉	2			
東京	7			
神奈川	5			
愛知	5			
岐阜	1	中部地方	7	18.42%
富山	1	関西地方	4	10.53%
京都	2			
大阪	2			
鳥取	1	中国地方	1	2.63%
<b>合計</b>	<b>38</b>		<b>38</b>	



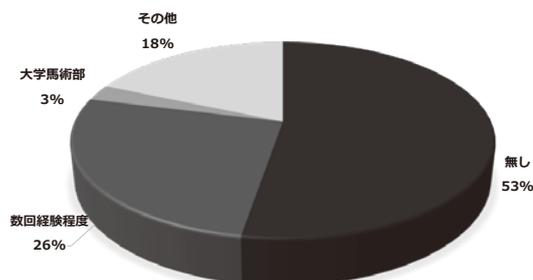
## Q.16 牧場就業にどれくらい興味がありますか

興味	回答数	%
少し話を聞いてみたい	8	21.05%
就職先候補のひとつ	17	44.74%
第一志望	13	34.21%
<b>合計</b>	<b>38</b>	



## Q.15 乗馬経験

乗馬経験	回答数	%
無し	20	52.63%
数回経験程度	10	26.32%
高校馬術部	0	0.00%
大学馬術部	1	2.63%
その他	7	18.42%
<b>合計</b>	<b>38</b>	



## 「夏休み研修コース体験入学会」「牧場で働こう見学会（関東・関西）」

令和3年度につきましても、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、昨年同様「牧場で働こう見学会（関東・関西）」はやむなく中止といたしました。

「夏休み研修コース体験入学会」については、昨年同様日程を2泊3日に短縮して1回の参加者を10名に限定したうえで、1回目（7月28日～7月30日）、2回目（8月25日～27日）の2コースに分けて実施しました。

また、2回の体験入学会と夏休み牧場で働こう体験会への応募者で落選となった方々のフォローのため、急遽3回目（9月8日～10日）のコースを設定したところ、5名の参加がありました。各コースの参加者からは最大級の好評を得ました。

## 1. 実施概況

### 「夏休み研修コース体験入学会」

- (1)日時 : ① 1回目 : 7月28日～30日 (水・木・金)  
 ② 2回目 : 8月25日～27日 (水・木・金)  
 ③ 3回目 : 9月8日～9日 (水・木)
- (2)場所 : ①公益社団法人日本軽種馬協会 (JBBA)、公益財団法人軽種馬育成調教センター (BTC)、新冠ホロシリ乗馬クラブ、ビッグレッドファーム、HBA 北海道市場  
 ②公益社団法人日本軽種馬協会 (JBBA)、公益財団法人軽種馬育成調教センター (BTC)、優駿ビレッジ AERU、牧場  
 ③公益社団法人日本軽種馬協会 (JBBA)、公益財団法人軽種馬育成調教センター (BTC)、優駿ビレッジ AERU

- (3)参加者数（応募数約70名）：① 1回目：10名  
 ② 2回目：10名  
 ③ 3回目：5名

(4)実施内容：日本軽種馬協会（JBBA）と軽種馬育成調教センター（BTC）の技術者研修コースの体験入学等

「ご協力：新冠ホロシリ乗馬クラブ、ビッグレッドファーム、HBA 北海道市場、優駿ビレッジ AERU、三嶋牧場、イーストスタッド」



夏休み研修コース体験入学会（1～3回）

## 「夏休み牧場で働こう体験会」

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、やむを得ず実施を見合わせましたが、令和3年度につきましては、万全の感染拡大防止に努めた上で8月1日～6日に実施したところ12名の参加があり、協力牧場や参加者からは好評を得ました。

### 1. 実施概況

「夏休み研修コース体験入学会」

(1)日時 : 8月1日～6日(日・月・火・水・木・金)

(2)場所 : ①浦河組～牧場就業体験(杵臼牧場、笹島智則牧場、谷口牧場、※合流 AERU 乗馬体験 公益財団法人軽種馬育成調教センター(BTC)、公益社団法人日本軽種馬協会(JBBA)、ビッグレッドファーム、ダーレー・ジャパンファーム、ノーザンホースパーク)

②静内組～牧場就業体験(岡田牧場、目名共同トレーニングセンター、※合流 AERU 乗馬体験 公益財団法人軽種馬育成調教センター(BTC)、公益社団法人日本軽種馬協会(JBBA)、ビッグレッドファーム、ダーレー・ジャパンファーム、ノーザンホースパーク)

(3)参加者数(応募数約40名):12名

(4)実施内容:牧場での作業体験、乗馬体験、BTC 体験学習、その他牧場施設見学等

「ご協力:公益社団法人日本軽種馬協会、公益財団法人軽種馬育成調教センター、杵臼牧場、笹島智則牧場、谷口牧場、岡田牧場、目名共同トレーニングセンター、ビッグレッドファーム、ダーレー・ジャパンファーム、ノーザンホースパーク、優駿ビレッジ AERU」



夏休み牧場で働こう体験会

## 「BOKUJOB2021 サポートデスク・PRブース」

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、各競馬場が入場者制限を行っていることから、令和3年度につきましても、サポートデスクの設置等につきましては止むを得ず実施を見合わせました。

一方、各種スポーツイベント等については再開されるものもあり、全日本高等学校馬術競技大会（7月19日～21日）が御殿場市馬術・スポーツセンターで開催されました。そこで、万全の感染拡大防止に努めた上で、サポートデスクを設置したところ、学校関係者及び出場選手から多くの相談があり好評を得ました。

秋以降についても実施するべく調整中です。

月日	見学者(名)	うち相談者(名)	木馬利用者(名)
7/19(月)	22 (21)	22 (0)	11 (31)
7/20(火)	23 (31)	23 (5)	33 (40)
7/21(水)	0 (—)	0 (—)	14 (—)
合計	45 (51)	45 (5)	58 (71)

( ) は一昨年度



## 「広報展開」

### 「生産・育成牧場就職応援サイト bokujob.com」の運営

令和3年度につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため対面型イベントの実施を取り止めざるを得ない状況もありましたが、夏以降については感染拡大防止に努めた上で再開できるイベント等もありました。これらにおいて以下の紹介や Web での PR 展開を併せて実施しました。

- ・ポスター・チラシ作成、送付  
農業高校、馬術部のある学校、動物系専門学校、競馬関連施設他多数
- ・JRA ホームページ・BOKUJOB ホームページでの CM 等 Web 告知展開
- ・競馬週刊誌 Gallop、優駿、うまレター、馬市ドットコム、農業高校機関誌（リーダーシップ）等の告知広告
- ・Facebook、Twitter による情報発信、各方面へのフォローの依頼
- ・YouTube 映像の作成と広報展開
- ・農業系高校の担当教諭への訪問・説明

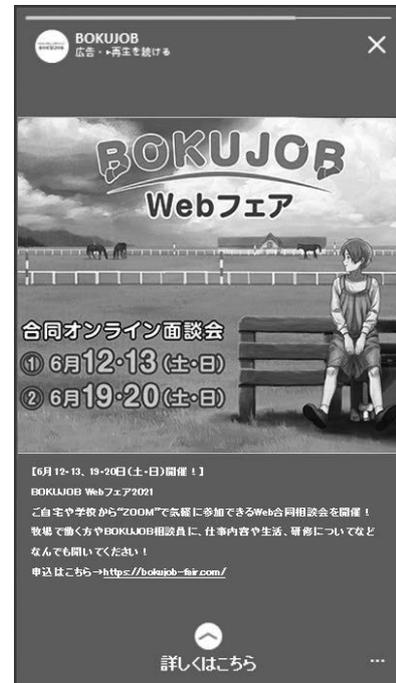




YouTube 告知



JRA ホームページ内告知



Instagram ストーリー告知



Twitter 告知



Facebook 告知



## 「BOKUJOB 求人牧場紹介 BOOK の作成」

令和3年につきましても昨年同様に掲載希望牧場を募集し作成しました。

## 「BOKUJOB ブログ」

令和3年度につきましてもブログに寄投稿していただける牧場を募集しております。求人情報に拘らず、牧場の日常の様子をご披露いただくなど、若者が牧場就労に興味を持っていただけるような内容を紹介しています。詳しくは、インターネットにて「BOKUJOB」若しくは「BOKUJOB ブログ」で検索してください。

## 「事務局所感」

令和2年、3年度の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事務局（5団体）では感染症防止について万全な体制（参加者等への陰性証明提示義務、各種感染防止対策の徹底等）を整えたうえで各種取組みを実施しました。

こういった社会状況の変化や新型コロナウイルス感染症による先行き不透明な状況の中、今回全国から多くの就業相談者が相談会や各種体験会等に積極的に参加して下さったことは、将来の競馬産業全体の担い手の底上げに寄与（橋渡し）できると期待しています。これからも事務局一同尽力していきたいと思っております。

最後にご協力いただきました牧場関係者の皆様、その他施設利用等にご配慮いただきました関係各所の皆様方に対し、御礼申し上げます。

## ～お知らせ～

競走馬生産・育成牧場応援サイト「BOKUJOB」に求人広告を掲載してみませんか。

詳しくは、Webサイト「BOKUJOB」ホームページをご覧ください。

求人に関する掲載費用は無料ですので、ご希望の方はWebサイトから直接お申込み、若しくは記入フォーマットを印刷のうえFAXにて協会までご連絡ください。

東京事務局 電話 03-6809-1821  
FAX 03-6809-1822

# 令和2年度「育成等に関する懇談会」を開催

JRAと競走馬育成協会との「育成等に関する懇談会」は平成12年度から継続して開催されています。令和2年度の懇談会は10月2日(金)13時25分からJRA本部9階第5会議室において、JRAから横田貞夫馬事担当理事、小玉剛資馬事部長、伊藤幹生産育成対策室長ほか担当職員、競走馬育成協会から栗田会長をはじめとし地域団体を代表する理事等(欠席理事2名)のほか担当職員が出席して開催されました。

## 開会挨拶

最初にJRA横田理事より、以下の内容の挨拶がありました。

- ① 令和2年8月の栗東トレーニング・センターにて発生した厩舎火災についてご心配をおかけした。トレーニング・センター内で協議を重ね再発防止に向けた取り組みを行いたい。
- ② 新型コロナウイルスにより、毎年競馬場で行っている「牧場で働こうフェア」は中止となったが、Zoomを活用した「Web相談会」を開催した。皆様のご協力により順調に執り行えたことに感謝申し上げます。
- ③ 競馬サークルの人材確保は競馬サークル内の大きな課題であり、JRAとしても全力で取り組んでいきたい。

続いて当協会栗田会長より、以下の内容の挨拶がありました。

- ① 春のクラシックでは無敗の2冠馬が2頭誕生し、3冠馬が誕生するかどうか非常に注目されている。この2頭のローテーションは、例年と異なっており、それぞれの育成場で個々の馬に合わせた、レベルの高い育成スタイルが確立していることを実感している。
- ② JRAには育成技術表彰について支援を継続いただくとともに褒賞費の増額をお願いする。また、競走関連機材有効活用事業についても積極的に提供をしていただきたい。
- ③ 令和2年度の事業は、新型コロナウイルスの影響でほとんど中止となったが、Webによる相談会の他、体験入学会の規模を縮小して実施した。今

後も新型コロナウイルスを意識しながら適切に事業を進めていく。

## JRAからの報告

最初にJRAから「JRA育成馬売却結果」「セリ市場の動向」の報告がなされました。

## BOKUJOBの活動状況と育成等を取り巻く状況について

次に当協会から「育成牧場における人材確保について(BOKUJOB)」の報告と以下に記載した「育成等を取り巻く状況について」を披露し、それらに対するJRAの見解等が示され意見交換がなされました。

## 「育成等を取り巻く状況について」

令和2年は新型コロナウイルスの感染拡大が、世界中の様相を大きく変えてしまいました。

その中でも無観客での競馬開催が続けられており、日本の競馬の力強さを示しています。これは開催団体の並々ならぬ努力に加え、厩舎関係者をはじめとした競馬に係わるすべての者が競馬開催の存続という最大目標へ尽力していることに間違いありません。育成牧場もその大きな役割分担を担っています。

新型コロナウイルスの恐怖に加えて毎年各所で繰り返される自然災害とも闘いながら、生産地やトレセン周辺における育成牧場は、トレセンが実施していない競走馬に育つための初期馴致や出走臨戦態勢のための出走間の維持調整を実践し、新馬戦をはじめとした出走頭数の確保に寄与しています。育成牧場は競走馬のライフサイクルのひとつのステージであり、中央競馬の安定には不可欠な役割を担い、高度で繊細な技術を求められているのです。

育成という業界が安定することが、中央競馬を維持していくことにつながります。競馬が継続的に開催されるためにも育成業界への各方面からの十分な配慮がより一層必要になってまいります。育成という業界が評価され安定的に活動できるようJRAの強い支援が望まれるところです。

## 1. 人材の確保・養成について

育成調教に係わる人材の確保と養成は競馬サークル全体の深刻な課題となっています。最近では日本の社会問題でもある少子高齢化や景気動向による他種業界の雇用環境の改善等の影響を受けて、軽種馬産業界は就労者の獲得に苦慮する状況が続いています。また競馬学校の年齢制限撤廃による人材流出の影響は大きく、人材不足は想像以上に深刻です。

当協会を事務局にJRAほか関係5団体が連携して「競走馬の生産育成牧場への就業者参入促進事業(BOKUJOB)」を展開しており、地味ながら着実に成果をあげてはいます。しかし、本年は対面型のイベントをことごとく中止せざるを得なくなっており、加えて若者の減少や他業種との競合等の現実は厳しく、新規に就労する者の数は減少を食い止めるのに必死です。

また育成牧場という性質上、騎乗技術者の養成は必要不可欠です。業界としても労働環境の改善等に取り組む一方で、育成預託料を抑えることも求められ、有望な人材が中央競馬へ流れることを引き留めるだけの魅力を提示することができないでいます。

これらのことから業界では労働力不足を外国人労働者に依存するようになってきています。日本人の若者には多くの魅力的な職業が提示されており、この業界は対抗できる魅力を示せないのも一因です。牧場や地方競馬で外国人材の登用が避けられない現実となってきている以上、いずれJRAにも何らかの影響が及ぶかもしれません。

競馬の恵みが循環することで育成牧場もある程度潤い、若者に魅力的な労働条件を提示できるようにならなければなりません。今後とも就労者の獲得や騎乗技術者の養成はもとより、就労者が定着できるような育成牧場の経営基盤の安定にも、JRAの多方面からの支援を強く願うところです。

## 2. 育成技術表彰について

新馬戦に向けた入厩前の若馬育成や次走に向けて臨戦態勢での維持調整といった昨今の育成牧場に求められる業務の証として、育成技術表彰事業は会員から強い関心と意欲をもって注目されています。

令和元年度のJRA助成予算において褒賞費総額を増加していただきましたが、表彰勝利数や表彰該当率が過去最高を更新し、褒賞単価は60,740円(平成31年67,900円)となりました。令和2年度も褒賞費総額を増加していただいておりますが、一方で競走体系や

競走数等が年々変化したり、当協会会員育成場の育成馬の表彰実績がたいへん高かったりすることから、協会の育成技術表彰規程に定める原則単価100,000円にはまだまだ届きません。

生産牧場は現在まで経営基盤に様々な対策がなされてきましたが、育成牧場は後発で役割が高まってきたことから、生産者賞のような制度はなく、直接的に成果が反映されるのは「育成技術表彰制度」だけであります。この「育成技術表彰制度」の全体的な価値を拡大し、競馬サイクルの一翼を担う育成牧場の基盤整備に寄与することが望まれるのではないかと考えられます。そうした還元が就労環境を整え後継者の養成や育成技術者の確保等につながると思われますので、さらなる支援の増強をお願いします。

一方、令和2年は現在まで中止となっていますが、JRA競馬場における2歳重賞6競走の会員表彰は、会員の大きな励みとなっています。関係者すべてが競馬場に入場できるようになりお客様が戻って表彰式が再開された後には、引き続き表彰機会の提供をお願いするとともに、対象競走の拡大についても検討をお願いします。

## 3. 育成牧場の基盤強化対策について

育成牧場には、人材確保、技術者養成、技術向上、設備投資が必要です。耕作農業のように公的で有利な融資等の制度はなく、その一方で設備投資等の規模は大きくなってしまいます。また何よりも人材確保の面から経営基盤安定が不可欠になります。

低金利時代を反映して、利子補給事業は平成29年以降の3年間で新規9件を開始しました。今は各牧場と金融機関が前向きにこの制度を利用するようになってきたと思われます。制度の安定的な維持が必要です。

一方、競馬関連機材等有効活用事業については、JRAに様々なご協力をいただいております。この事業は牧場経営上の即効性があることから、会員の関心と要望も強く抽選倍率も高くなっています。より多くの機材が育成牧場で有効に活用できますよう、関係団体を含め、より一層の援助を期待するところです。

## JRAの見解と懇談内容

### 1. 人材の確保・養成について

JRAからは、育成調教技術者の確保・要請については、競馬サークル全体で取り組むべき課題である

と認識しています。令和2年は新型コロナウイルスの影響で対面でのBOKUJOBのイベントは中止と承知していますが、貴協会の新たな試みであるWeb相談会については、JRAも協力させていただきました。人材不足については大きな課題と受け止めていることから、JRAとしても今後とも協力・支援を惜しまずに続けていきたいと考えています。

## 2. 育成技術表彰事業における褒賞金について

JRAでは「育成技術表彰」の重要性は認識しており、予算については平成22年から29年までの7年間据え置きましたが、平成30年から3か年続けて増額してきました。令和3年度についても昨今の発売金の状況を鑑み、増額する方向で各所と調整を行っているところです。

また、JRA競馬場における2歳重賞6競走の会員表彰については、新型コロナウイルスの影響により表彰式自体を行っていないため、当該表彰も行えていない状況です。最終レースの遅延につながるため、対象競走を増やすことは難しいですが、競馬場担当者には会員表彰の必要性を説明し、表彰式再開時には、現在実施している競走については引き続き実施できるように努めていきます。

## 3. 育成牧場の基盤強化対策について

競馬関連機材等有効活用事業については、JRAの施設部門の担当者とも引き続き連携し、協会の皆様の要望に答えられるように努めていきます、との見解が示されました。

これらのテーマについては以上のような内容でありましたが、この懇談会は比較的自由的な意見交換ができるように設定されており、この他にも、以下のような内容について様々な懸念表明や意見交換がなされました。

協会：「競馬サークルにおける労働力不足は非常に深刻な状況。牧場にとって外国人の受け入れと雇用のハードルは高い。受け入れる外国人の質を求めるのでなく、雇用する牧場も外国人雇用についてのスキルアップの必要がある。個々の牧場だけでは難しく組織的な対応が必要であり、その際にはJRAにも協力をお願いしたい。」

協会：「コロナ禍でアルバイト減少や部員の減少によ

り大学馬術部の存続が厳しいと聞いている。JRAから支援があるのは知っているが、さらに手厚く援助できないだろうか？」

JRA：「JRAでは、日本馬術連盟に助成し、間接的に学生馬術連盟や大学馬術部に資金援助をしているが、今後は直接援助ができるよう検討していく。また、大学馬術部にアンケートを行い、現状把握に努めており、その結果を踏まえて対応策を講じていきたい。オリンピックに向けて様々な広報展開をしている中で、さらに馬の魅力伝えていければと思っている。」

協会：「茨城県馬牧場防疫協議会と育成協会関東支部のいずれにも属さない育成業者が近年散見され、育成協会でも実態の把握が追いつかないため、馬の移動も複雑になっている。育成業者の実態の把握と同時に、トレセンにおける育成協会会員牧場の案内などの対応はできないだろうか？」

JRA：「JRAとしても現状の把握に努めたい。また、できることがないか相談していきたい。」

協会：「日高では獣医師や装蹄師の高齢化と人員不足が深刻である。」

JRA：「近年JRAでは奨学金制度を導入して、利用者に育成牧場や競走馬総合研究所でのセミナー等で馬を見る機会を増やすよう努めている。これまでのところ、ある程度の関心を持ってくれているので、今後も継続していきたい。装蹄師に関しても現場を見る機会を増やすことが重要かもしれない。」

協会：「地方競馬の北海道競馬におけるBTC施設の認定厩舎利用については、なかなか実現化しない。これ以外にも育成業界を良くしようという取組みの際には、JRAも様々な場面で援護・協力してほしい。」

## 定時総会開催

令和3年度定時総会は、令和3年2月12日（金）14時に日本中央競馬会新橋分館4階会議室において開催されました。

令和3年度の総会については、政府による緊急事態宣言の発出、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、従来の参集型ではなく、書面及び通信等を利用して総会の成立要件を満たす方式を採用し、Web会議ツールを用いたWeb総会として開催しました。なお、一般会員の方々につきましては、委任状あるいは議決権行使書の提出を求めた上で実施いたしました。

栗田晴夫会長からは、「コロナ禍における本総会の変則開催への協力に感謝するとともに、コロナ禍においても中央競馬が開催を継続できていること、会員牧場もその一端を担っておりスターホース誕生に

貢献していただいていることに敬意を表します。当協会としても、就業者参入促進事業の推進を中心に、公益法人として業界全体の基盤強化に取り組んでいく所存です。」と挨拶がありました。

ここで、本来でありましたらご来賓のご挨拶をいただくところですが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症防止の観点からご来賓のご招待を控えさせていただきます。

引き続き、議長に荻野豊氏が選出され、以下の議案の審議に入り、原案の内容のとおり承認されました。

第1号議案「令和2年度事業報告及び令和2年度財務諸表について」

第2号議案「令和3年度会費等の額及び徴収の方法について」

第3号議案「理事及び監事の選任について」

※令和3年度 役員一覧（以下参照）

役 職	氏 名	備 考
会 長 理 事	栗 田 晴 夫	現理事
副会長理事	佐 藤 光 信	〃
副会長理事	飯 田 正 剛	〃
理 事	荻 野 豊	〃
理 事	高 橋 司	〃
理 事	沖 崎 誠 一 郎	〃
理 事	中 内 田 克 二	〃
理 事	柏 木 務	〃
理 事	宮 島 成 郎	〃
理 事	織 田 信 美	〃
監 事	五 島 崇	監事（新任）
監 事	杉 野 繁 治	現監事

# 競走馬育成協会の組織改正

(改正 令和3年2月12日)

本協会では、軽種馬経営の高度化と安定化を図るため、BOKUJOB活動を中心とした生産育成牧場への就業希望者の参入促進及び定着に要する事業を実施するとともに、生産育成技術の向上に関して高度な知識や技術の修得を目的とした海外研修へ派遣し、国内軽種馬関係機関が国内の軽種馬生産育成の仕事への就業者を養成するために設置した研修機関で教育を受ける者のうち、勉学意欲がありながら経済的理由により修学が困難な者に対し、修学奨励金を交付しているところです。

これらの業務に対する周囲からの期待と要望は年々増加し、その処理については本協会内での組織的独立が必要な状況に至っております。

こうした軽種馬経営高度化指導研修（人材養成支援）事業の生産育成牧場就業者参入促進事業や生産技術者海外派遣研修事業及び修学奨励金交付事業に対応するには本協会の業務基盤を整備していくことが必要となってくることから、今般、必要な組織改正（事業推進部の設置）を行いました。

1. 事業推進部の新設
2. 事業推進部の事務分掌の規程
3. 総務部の事務分掌の整理

※公益社団法人競走馬育成協会 組織規程の一部改正により

## 【組織規程 第2条】

現行（2部）		改正後（3部）
(1) 総務部	→	(1) 総務部
(2) 業務部	→	(2) 業務部
	→	(3) 事業推進部

## 【組織改正後の人事異動（令和3年3月1日付）】

【退任】		【就任】
総務部長 小沼 秀樹	→	総務部長 太田 啓
業務部長 吉田 年伸	→	業務部長 守山 秀和
	→	事業推進部長 後藤 博英

# 育成技術講習会

## 令和2年

育成技術講習会はJRA、BTC および当協会の3団体共催での講習会として実施しております。令和2年度につきましても例年通りの開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から全て開催中止となりました。

### ○東北地区

新型コロナウイルス感染拡大防止等の観点から中止となりました。

### ○九州地区

新型コロナウイルス感染拡大防止等の観点から中止となりました。

### ○北海道地区

新型コロナウイルス感染拡大防止等の観点から中止となりました。

### ○関西地区

新型コロナウイルス感染拡大防止等の観点から中止となりました。

### ○関東地区

新型コロナウイルス感染拡大防止等の観点から中止となりました。

全て開催中止となりました。講習会開催の代替として、地方競馬全国協会競走馬生産振興事業の馬学講座「ホースアカデミー」の講演テーマから「アイルランドにおける軽種馬生産（JRA 日高育成牧場 岩本洋平 様）」および「若馬の昼夜放牧採食量（JRA 日高育成牧場 松井朗 様）」をピックアップし、当協会 HP にその講演動画を掲載しました。馬学講座「ホースアカデミー」については、公益社団法人 日本軽種馬協会の HP にも掲載されております（過去配信分もご覧になれます）。また、日本中央競馬会よりご提供いただきました海外研修報告「米国における生産および育成調教（日高育成牧場 遠藤祥郎 様）」について、協会 HP に PDF を掲載しました。

## 令和3年

令和3年度の開催については、9月1日現在で以下の通りの開催を実施、予定しておりますが、新型コロナウイルス感染拡大防止等の観点から変更となる場合があります。実施の有無および予定の変更については、随時協会 HP を通じてお知らせします。

### ○東北地区

9月9日（木） 13:30～15:00

八戸家畜市場

演題：「分娩時に発生するトラブルとその対応」

講師：JRA 日高育成牧場 業務課育成係長 岩本洋平氏

BTC 主催

〔今後の予定〕

### ○北海道地区

（例年秋に開催）

育成協会主催

新型コロナウイルス感染拡大防止等の観点から中止となりました。

### ○九州地区

（予定）9月29日（水） 13:30～15:00

（公社）日本軽種馬協会 九州種馬場

演題：「分娩時に発生するトラブルとその対応」

講師：JRA 日高育成牧場 業務課育成係長 岩本洋平氏

BTC 主催

### ○関西地区

（例年秋に開催）

JRA 主催

新型コロナウイルス感染拡大防止等の観点から中止となりました。

### ○関東地区

（例年秋に開催）

JRA 主催

新型コロナウイルス感染拡大防止等の観点から中止となりました。

# 育成技術表彰事業

## 1. 育成技術表彰事業について

- (1) 平成11年11月29日制定「育成技術表彰規程」により、平成12年度から現在の表彰事業が重賞競走を対象に開始されました。
- (2) 平成13年度には、育成段階の成果が反映され易いと考えられる新馬競走が表彰対象に加わり、重賞競走とともに表彰が行われてきました。更に、順次表彰対象の拡充・充実が行われ、平成31年度（令和元年度）にはリステッド競走が新たな対象となりました（表1）。

## 2. 令和2年度の表彰事業について

- (1) 令和2年度の表彰件数は、対象552競走のうち332競走でした。該当率については、特に2歳新馬競走で77.3%、2歳重賞（含交流）・リステッド競走で80.0%と高い該当率を維持しており、対

象競走全体でも60.1%と高い水準を維持する結果となりました。

- (2) 令和2年度の表彰対象者は、表3の通りです。

## 3. 令和3年度の実施について

- (1) 表彰要件等については昨年から変更はありません（表2）。
- (2) 平成20年度に実現した重賞2歳ステークス競走の施行場における育成者表彰対象については、昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止等のため全競走で中止となり、本年においても札幌・函館・新潟・小倉・デイリー杯及び京王杯の各2歳ステークス6競走を予定していたところ、札幌・函館・新潟・小倉が中止となりました。11月に予定されている京王杯・デイリー杯における実施については、9月1日時点で未定です。

表1. 育成技術表彰事業の推移

区 分	表彰対象及び拡充の経緯	(表彰件数)	区 分	表彰対象及び拡充の経緯	(表彰件数)
平成12年度	2歳重賞・3歳重賞 障害重賞・3歳（4歳）以上重賞 競走の3歳馬・ダート重賞交流競 走（3・4歳限定）	39件	平成21年度		225件
平成13年度	2歳新馬競走	147件	平成22年度		230件
平成14年度		163件	平成23年度		229件
平成15年度	特定の重賞競走、表彰要件の緩和 (育成期間5ヶ月以上)	125件	平成24年度		250件
平成16年度	3歳新馬競走	195件	平成25年度		232件
平成17年度		185件	平成26年度		272件
平成18年度	3歳オープン競走	201件	平成27年度		280件
平成19年度		213件	平成28年度		275件
平成20年度		218件	平成29年度		284件
			平成30年度		295件
			平成31(令和元)年度	リステッド競走	338件
			令和2年度		332件

表2. 令和3年度の実施について

種 目	表彰要件（注1、2）	賞 金	備 考
1. 新馬競走	満1歳になる年度の9月1日～12月31日 までの間に騎乗馴致を開始し、翌年の5月31 日までの期間に継続して150日以上育成し、 優勝した馬を育成した正会員	原則10万円	ただし、賞金総額が予算 額を上回った場合、単価 切り下げを実施。
2. 2歳重賞競走等 (1) 2歳重賞競走 (2) 2歳重賞指定交流競走（地方競馬施行） (3) 2歳リステッド競走			
3. 障害重賞競走	継続して60日以上障害調教を行った馬であっ て、トレセン等入厩後42日以内に障害試験 に合格し、優勝した馬を育成した正会員		
4. 平地重賞競走等（2歳限定競走を除く） (1) 平地重賞競走 (2) 平地リステッド競走	トレセン等入厩直前に、継続して14日以上 育成調教を行った馬であって、トレセン入厩 後30日以内に優勝した馬を育成した正会員		
5. 1～4以外の平地オープン競走 (2歳及び3歳限定競走を除く)		原則10万円	ただし、賞金総額が予算 額を上回った場合、単価 切り下げを実施。

注1. 前年度の12月31日現在、当協会の正会員であること。

注2. ただし、障害重賞競走にあつては、障害調教開始日現在において、当協会の正会員であること。

表3. 令和2年度 育成技術表彰対象会員一覧

会員名	代表者名 (敬称略)	地域	表彰件数															会員 番号		
			合計	新馬		2歳重賞・リステッド				2歳交流重賞			3歳以上重賞・リステッド				障害重 賞		3歳 以上 オープン	
				3歳	2歳	G I	G II	G III	L	JPN I	JPN II	JPN III	G I	G II	G III 重賞	L				
ノーザンファーム	吉田 勝己	北海道	111	15	78	3	4	5	2		1				1	1		1	1056	
(株)レッキスホースパーク	吉田 俊介	関西	25											3	6	8	7		1	4027
社台ファーム	吉田 照哉	北海道	21	5	16															1033
ノーザンファーム天栄	吉田 勝己	東北	17											4	4	2	5		2	2017
(株)吉澤ステーブル	吉澤 克己	北海道	13	6	7															1096
(株)ミコインターライズ 大山ヒルズ	前田 幸治	関西	11	1	6									1	1	2				4031
追分ファーム (リリーバレー)	吉田 晴哉	北海道	7	1	5											1				1003
(株)グリーンウッドパーク	清水 文徳	関西	7													3	4			4008
(有)ビッグレッドファーム	岡田 美佐子	北海道	6		5		1													1073
(株)シュウジデイファーム	石川 秀守	北海道	6		6															1100
(有)ケイアイファーム	中村 祐子	北海道	5		5															1023
(有)ヤマダステーブル	山田 秀人	北海道	5		5															1095
(有)宇治田原優駿ステーブル	八木 秀之	関西	5											1	1	1	1		1	4005
(有)グランド牧場	伊藤 佳幸	北海道	4		4															1021
(有)コスモビューファーム	岡田 亜希子	北海道	4	2	2															1026
(有)坂東牧場	坂東 正積	北海道	4		4															1065
(有)日高軽種馬共同育成公社	鳴海 修司	北海道	4		4															1070
(有)ノルマンディーファーム	岡田 牧雄	北海道	4		4															1104
(株)小国ステーブル	小国 和紀	北海道	3		3															1012
(有)キタジョファーム	北所 直人	北海道	3	2	1															1018
(有)下河辺牧場	下河辺 俊行	北海道	3	1	2															1032
(有)千代田牧場	飯田 正剛	北海道	3	1	2															1048
(株)西山牧場	西山 茂行	北海道	3		3															1053
(有)三嶋牧場	三嶋 昌春	北海道	3	1	2															1087
(株)吉澤ステーブル WEST	吉澤 克己	関西	3											1			1		1	4029
EISHIN STABLE	平井 克彦	関西	3	2	1															4033
(株)加藤ステーブル	加藤 信之	北海道	2		2															1016
(有)高昭牧場	上山 泰憲	北海道	2		2															1025
(有)様似木村牧場	木村 将樹	北海道	2	2																1028
田口トレーニングファーム	田口 廣	北海道	2		2															1041
(有)武田ステーブル	武田 茂男	北海道	2	2																1042
チームプレアデス	星野 純一	北海道	2	1	1															1049
(有)日進牧場	谷川 利昭	北海道	2		2															1054
(有)ヒクトリーホースランチ	荻野 豊	北海道	2		2															1069
(有)ファンタスタクラブ	古岡 宏仁	北海道	2		2															1075
(有)フジワラファーム	藤原 俊哉	北海道	2	1	1															1103
育成牧場ブルーステーブル	岩淵 哲雄	関東	2		1														1	3011
(株)リパティホースナヴィゲイト	佐久間 拓士	関東	2													1	1			3039
(株)フォレストヒル	金山 敏也	関西	2													1	1			4032
(合)藤平ステーブル	藤平 浩幸	北海道	1		1															1014
(有)グランデファーム	衣斐 浩	北海道	1		1															1020
(株)セイクリットファーム	小林 克己	北海道	1		1															1027
様似町軽種馬共同育成センター利用組合	辻 弘毅	北海道	1	1																1029
(株)白井牧場	白井 岳	北海道	1		1															1034
(有)ヒダカファーム	近藤 聡明	北海道	1		1															1072
(株)森本ステーブル	森本 敏正	北海道	1		1															1091
(有)目名共同トレーニングセンター	岡田 隆寛	北海道	1		1															1094
(株)吉永ファーム	吉永 正志	北海道	1		1															1102
デンコー・トレーニングセンター	島川 智行	東北	1													1				2018
追分ファーム山元トレーニングセンター	吉田 晴哉	東北	1																1	2025
(株)グロースフィールド	原 昌久	関東	1														1			3010
(有)坂本企画KSトレーニングセンター	坂本 幸子	関東	1													1				3014
(有)ミホ分場	藤沢 美咲	関東	1																1	3037
(有)ジョイナスファーム	稲村 一規	関東	1		1															3043
那須松田ステーブル	松田 高紀	関東	1		1															3052
(株)UPHILL	弊旗 政則	関西	1																1	4013
信楽牧場(株)	中内田 克二	関西	1														1			4016

会員名	代表者名 (敬称略)	地域	表彰件数													会員 番号			
			合計	新馬		2歳重賞・リステッド				2歳交流重賞			3歳以上重賞・リステッド				障害重賞	3歳以上オープン	
				3歳	2歳	G I	G II	G III	L	JPN I	JPN II	JPN III	G I	G II	G III重賞				L
辰美牧場	夏村 道子	関西	1															1	4018
(有)山岡トレセン	山下 繁美	関西	1													1			4022
(有)三重ホーストレーニングセンター	伊藤 和夫	関西	1												1				4026
(有)ワコーファーム	脇 和弘	関西	1											1					4028
柏木牧場	柏木 務	九州	1	1															5003
表彰件数 合計		62会員	332勝	44	191	13			2	1			47			23	0	11	332
対象競走 合計			552競走	56	247	14			2	4			115			62	10	42	552
該当率			60.1%	78.6%	77.3%	92.9%			100.0%	25.0%			40.9%			37.1%	0.0%	26.2%	
対象競走			3歳新馬	2歳新馬	2歳重賞・リステッド				2歳交流重賞			3歳以上重賞・リステッド				障害	オープン		

## 令和2年度 2歳重賞競走の施行競馬場における表彰

※ 11月以降

日付	場所	回	競走名	G	馬名	性	会員番号	牧場名	備考
11月7日(土)	東京	第56回	京王杯 2歳ステークス	II	モントライゼ	牡	1056	ノーザンファーム	表彰式中止
11月14日(土)	阪神	第55回	デイリー杯 2歳ステークス	II	レッドベルオーブ	牡	1056	ノーザンファーム	表彰式中止

## 令和3年度 2歳重賞競走の施行競馬場における表彰

新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、函館・新潟・札幌・小倉各2歳ステークスの表彰式は中止となりました。

日付	場所	回	競走名	G	馬名	性	会員番号	牧場名	備考
7月17日(土)	函館	第53回	函館2歳ステークス	III	ナムラリコリス	牝	1027	(株)セイクリットファーム	表彰式中止
8月29日(日)	新潟	第41回	新潟2歳ステークス	III	セリフォス	牝	1003	追分ファーム	表彰式中止
9月4日(土)	札幌	第56回	農林水産省賞典札幌 2歳ステークス	III	ジオグリフ	牡	1056	ノーザンファーム	表彰式中止
9月5日(日)	小倉	第41回	小倉2歳ステークス	III	ナムラクレア	牝	1045	(有)谷川牧場	表彰式中止
11月6日(土)	東京	第57回	京王杯2歳ステークス	II	11月の京王杯・デイリー杯の表彰式についての実施は未定です				
11月13日(土)	阪神	第56回	デイリー杯 2歳ステークス	II					

# 軽種馬生産育成強化資金利子補給事業

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業は、公益財団法人全国競馬・畜産振興会の助成を受け、軽種馬経営の強化安定に資する目的により、協会会員を対象に軽種馬の育成調教に係る施設、機械、草地等の経営環境の整備・改善に必要な資金を融通する融資機関に対し利子補給を行うものです。

本事業における貸付対象は、大きく以下の3種類に分類されます。

①生産育成施設整備資金

厩舎、馬場、放牧柵およびその他協会が認める生産育成施設の改良、造成または取得に必要な資金

②生産育成機械等取得資金

牧草収穫調整用機械、農用地改良造成用機械、馬運車を含む運搬用機械、糞尿処理施設等環境汚染防止施設およびその他協会が認める生産育成用機械の改良、造成または取得に必要な資金

③草地更新等整備資金

草地更新等整備に必要な資金

本事業は、平成5年より国が実施する農業近代化資金制度に準じた形態で実施していますが、平成22年までは9件の利用実績に止まっていた。

しかし、近年は政府のマイナス金利施策により、各融

資機関が低利での融資提供に積極的となったため、平成29年～令和2年の4年間で11件まで利用実績が急増しています。令和3年においても9月1日時点で2件の利用があり、これ以降にも1件の予定があります。

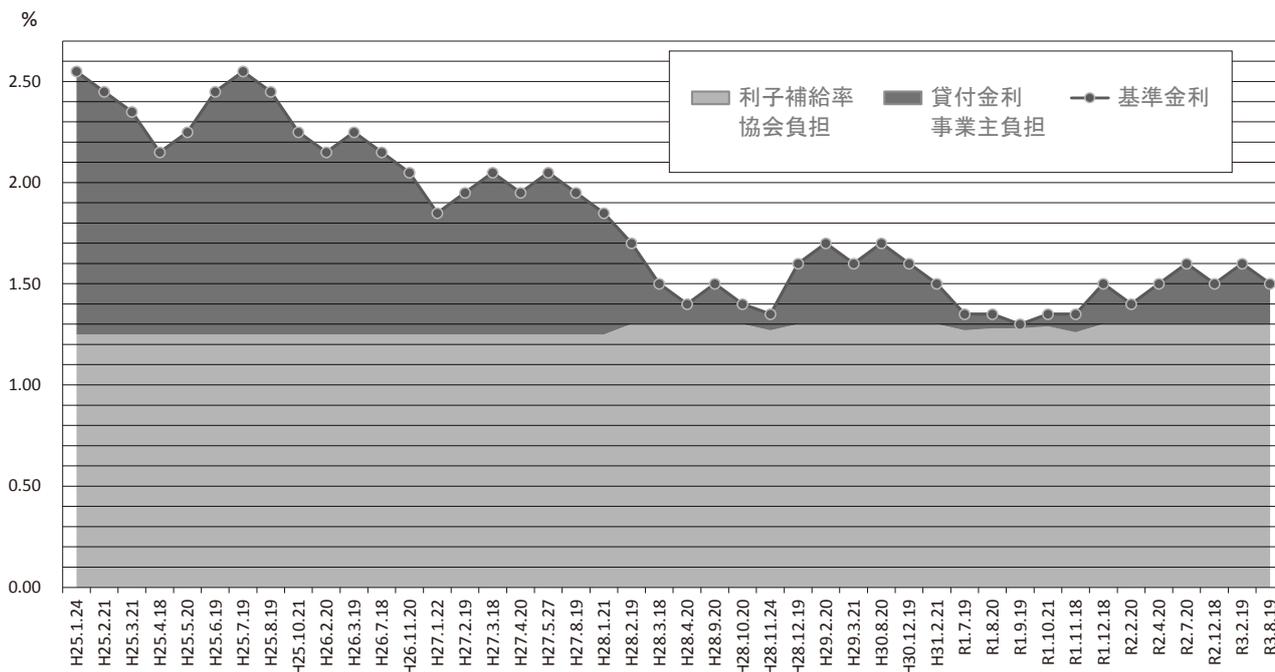
これまで利用実績のある融資機関としては、北海道銀行早来支店、北洋銀行静内支店、常陽銀行美浦支店、筑波銀行美浦支店、滋賀県信用農業協同組合連合会および滋賀銀行八日市東支店があります。

本事業のご利用を検討されている会員は、協会業務部までご連絡ください。

融資状況（令和3年9月1日現在）

承認年	地区	承認額 (千円)	基準金利	利子補給	貸付金利
平成22年	関西	110,000	2.50%	1.25%	1.25%
	関西	300,000	2.70%	1.25%	1.45%
平成29年	北海道	144,000	1.40%	1.30%	0.10%
	関東	300,000	1.40%	1.30%	0.10%
	関東	40,000	1.40%	1.30%	0.10%
	関東	43,000	1.60%	1.30%	0.30%
	関西	3,500	1.60%	1.30%	0.30%
平成30年	北海道	80,000	1.60%	1.30%	0.30%
	北海道	85,000	1.60%	1.30%	0.30%
令和元年	関東	100,000	1.50%	1.30%	0.20%
	関東	25,900	1.35%	1.28%	0.07%
令和2年	関東	9,890	1.50%	1.30%	0.20%
	関西	100,000	1.60%	1.30%	0.30%
令和3年	北海道	10,000	1.60%	1.30%	0.30%
	北海道	6,500	1.60%	1.30%	0.30%

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業 利子率変遷 平成25年～令和3年



## 競馬関連機材等有効活用事業

競馬関連機材等有効活用事業は、会員の育成調教施設用機材の投資負担を軽減して経営の安定化を図ることを目的に、平成15年より JRA および関連団体で使用を取りやめた競馬関連機材等について提供を受け、会員への再利用を斡旋（有償、無償）しています。

コロナ禍の令和2年度においても10月に21件23機材もの募集が実現し、17件18機材（うち1件2機材は11月の2次募集にて）が会員に配付されました（一部応募数が募集数を上回る機材の配付については、監事立会いのもとで厳正なる抽選を実施し、配布する会員を決定しています）。募集要項および結果等の詳細については、随時協会ホームページに掲載しておりますのでご確認ください。

令和3年度におきましても、10月頃を目途に提供される機材の情報提供を行うべく準備を進めておりますので、各地域団体（支部）からのお知らせおよび協会ホームページをご確認ください。

### ご注意ください！

#### 以下の会員は応募をお控えください！

本事業は、有償・無償を問わず、事業の主旨にご賛同いただいた提供者様のご協力により実施されております。今後も本事業を継続していくため、以下に該当する会員については応募をお控えください。

- ・機材情報に記載された機材の状況・不具合等について、承諾できない会員。
- ・配付の確定後、速やかに指定された機材提供者に連絡し、引取り等の相談をすることが困難な会員（引取り等については、会員自らが機材提供者と直接の連絡を取ることが必要です）。
- ・平日の1日以上、電話に応答できないまたは折り返しの返答が困難な会員。
- ・自ら機材を引取る、または引取り業者を手配し、引取り等を調整することが困難な会員。
- ・車両等、移譲の手続きが必要な機材において、速やかに名義変更等の手続きをとることが困難な会員。
- ・提供される機材の全ての引取りが困難（一部のみの引取りのみを希望する）である会員。
- ・その他フォーマットに記載の事項に承諾できない会員。

### ご協力をお願いいたします。

応募に際し、必ず事前に協会ホームページ内の本事業実施要領および募集に係る注意事項をご一読いただき、記載内容についてご了承いただいたうえでご応募いただきますようお願いいたします。無抽選の場合を除き、同一年度内に一会員一機材限りの配付となります。また、前回の募集で同種機材の抽選に漏れた会員に限り、同種機材への優先倍率が適用（1回限り）されます。提供される機材により、残存減価償却費相当の有償機材であること、使用に際して修理を要する機材であること、特殊機械等の理由から高額な輸送費負担が生じる機材である場合があります。原則として抽選予定日以降のキャンセルはできませんので、熟考していただいた上でご応募くださいますようお願いいたします。

今後も、JRA、JRAF ならびに JSS 関係者の皆様のご協力を賜り、ご提供いただける機材の情報収集に努めてまいります。

競馬関連機材等有効活用事業対象機材の抽選結果

① 令和2年度・第1回〔10月23日(金) 21件〕

通番	物件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	応募 件数	除外 件数	優先 件数	倍率	取得会員 所属支部
1号	ウニモダベンツ社製・美浦 (故障により除外となりました)	1台	JRAF 美浦事業所 美浦トレーニングセンター	平成17年 (2005)	¥66,000	—	—	—	—	—
2号	トラクターショベル・栗東	1台	JRAF 栗東事業所 栗東トレーニングセンター	平成18年 (2006)	¥1,375,000	16	3	4	17	九州
3号	トラック1t (Wキャブ)・栗東	1台	JRAF 栗東事業所 栗東トレーニングセンター	平成20年 (2008)	¥308,740	3	0	0	3	北海道
4号	トラック1.25t (Wキャブ)・美浦	1台	JRAF 美浦事業所 美浦トレーニングセンター	平成17年 (2005)	¥50,000	4	1	1	4	北海道
5号	ダンプトラック (クレーン付)・ 4t・栗東	1台	JRAF 栗東事業所 栗東トレーニングセンター	平成18年 (2006)	¥1,000,000	14	2	2	14	関東
6号	ダンプトラック4WD (低床スラ イド式)・4t・栗東	1台	JRAF 栗東事業所 栗東トレーニングセンター	平成19年 (2007)	¥1,200,000	10	2	1	9	東北
7号	汚泥吸排車・栗東	1台	JRAF 栗東事業所 栗東トレーニングセンター	平成19年 (2007)	¥2,210,810	3	0	0	3	北海道
8号	路面清掃車・いすゞ製・美浦	1台	JRAF 美浦事業所 美浦トレーニングセンター	平成17年 (2005)	¥2,200,000	0	—	—	—	—
9号	モーターグレーダー (オートレバ ラー付) キャタピラー・美浦	1台	JRAF 美浦事業所 美浦トレーニングセンター	平成11年 (1999)	¥3,905,000	0	—	—	—	—
10号	ライムソワー・栗東	1台	JRAF 栗東事業所 栗東トレーニングセンター	平成19年 (2007)	無償	3	0	0	3	関東
11号	爪ハロー3m・栗東	1台	JRAF 栗東事業所 栗東トレーニングセンター	平成16年 (2004)	無償	5	1	0	4	関東
12号	爪ハロー4m・中山	1台	JRA 中山競馬場	平成5年 (1993)	無償	1	0	0	1	関西
13号	大型四列式爪ハロー5m・中京	1台	JRA 中京競馬場	平成15年 (2003)	無償	2	1	0	1	北海道
14号	爪ハロー5m・新潟	2台	JRA 新潟競馬場	平成7年 (1995)	無償	1	0	0	1	関西
15号	爪ハロー5m・美浦	2台	JRAF 美浦事業所 美浦トレーニングセンター	平成22年 (2010)	無償	1	0	0	1	—
16号	爪ハロー6m・東京	1台	JRA 東京競馬場	平成22年 (2010)	無償	1	0	0	1	—
17号	アルミ馬場柵・支柱・福島	1900m	JRA 福島競馬場	平成8年 (1996)	無償	6	1	3	8	北海道
18号	FRP 馬場柵・新潟	1400m	JRA 新潟競馬場	平成12年 (2000)	無償	9	1	3	11	北海道
19号	FRP 馬場柵・FRP 支柱・東京	3m × 200組	JRA 東京競馬場	平成15年 (2003)	無償	9	1	4	12	関東
20号	FRP 馬場柵・FRP 支柱・東京	1700m	JRA 東京競馬場	平成15年 (2003)	無償	13	3	3	13	関東
21号	馬道柵・美浦	1500m	JRA 美浦 トレーニングセンター	昭和51年 (1976)	無償	8	1	2	9	関東

※ 優先倍率の適用について：前回、同種機材の抽選に外れた取得希望会員へは、今回の抽選時1回に限り2個の玉を投入した。

※ 1号：機材の故障により、応募を取りやめた。

※ 14号：応募が1件であったため、2台とも当選とした。

※ 8.9.15.16号：応募者なしまたは辞退により二次募集へ

② 令和2年度・第1回二次募集〔11月11日(水) 4件(5台)〕

通番	物件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	応募 件数	除外 件数	優先 件数	倍率	取得会員 所属支部
8号	路面清掃車・いすゞ製・美浦	1台	JRAF美浦事業所 美浦トレーニングセンター	平成17年 (2005)	¥2,200,000	0	—	—	—	—
9号	モーターグレーダー(オートレ ベラー付) キャタピラー・美浦	1台	JRAF美浦事業所 美浦トレーニングセンター	平成11年 (1999)	¥3,905,000	0	—	—	—	—
15号A	爪ハロー5m・美浦(A)	1台	JRAF美浦事業所 美浦トレーニングセンター	平成22年 (2010)	無償	1	0	0	1	関東
15号B	爪ハロー5m・美浦(B)	1台	JRAF美浦事業所 美浦トレーニングセンター	平成22年 (2010)	無償	1	0	0	1	関東
16号	爪ハロー6m・東京	1台	JRA 東京競馬場	平成22年 (2010)	無償	1	—	—	—	—

※ 15号:2台に対し、応募が2件であったため、無抽選で当選。

※ 8.9.16号:応募者なし(再度の募集は実施しません)

## 事業5

# 軽種馬経営高度化指導研修(人材養成)

当協会では、平成22年度から地方競馬全国協会が実施している「競走馬生産振興事業」のうち、経営基盤強化対策事業の軽種馬経営高度化研修事業(人材養成支援)により助成を受け、生産・育成技術者の海外派遣研修をはじめ以下の3事業を引き続き実施しています。

### 1. 生産育成技術者海外派遣事業

この事業は、海外研修に係る諸経費(交通費、研修費、宿泊費等)の1/2を上限に補助金を交付するものです。この研修制度の詳細については、協会ホームページをご覧ください。

例年ならば生産育成技術者養成機関の卒業生を対象とした研修や長期研修及び短期研修を対象に海外研修への派遣援助を行ってきましたが、令和2年度は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、全ての海外派遣研修の実施を見合わせる結果となりました。

令和3年度においても新型コロナウイルス感染症拡大防止対応のため、やむを得ず募集を見合わせました。

### 2. 修学奨励金交付事業

国内軽種馬関係機関が国内の軽種馬生産・育成の仕事に就くための者を養成する目的で設置した研修施設で教育を受けようとする者の内、勉学意欲がありながら経済的理由により修学が困難な者に対して修学奨励金を交付する事業で、現在は、(公社)日本軽種馬協会、(公財)軽種馬育成調教センター及び協会が特に指定する研修所で研修を受講する者を審査対象としています。令和23年度における承認件数は、合計77件でした。

### 3. 生産育成牧場就業者参入【特集ページ参照】

軽種馬の生産育成調教分野で働く人材を確保するため、多くの若者に生産育成調教の現場を紹介することにより就業者の参入を促進する事業です。

## 賛助会員のご紹介

令和3年度、公益社団法人競走馬育成協会の賛助会員となっていただきました各社をご紹介します。

### 有限会社 アスコットコーポレーション

代表取締役 加藤誠  
Tel.029-885-8199 Fax.029-885-6177  
〒300-0427 茨城県稲敷郡美浦村布佐1870-8

馬体の健康は大腸を強くするサラLGから！  
皆様に信頼され20年の実績があるサラLGを販売しています。ご要望があればすぐに伺います！

サラLGは馬が好む甘いオリゴ糖により飼料に混ぜるだけで食欲が増します。腸が元気でないと活力ができません。諦めずにサラLGを与え続ける事によって馬自身で栄養を生成していきます。レースの疲れを軽減するだけでなく、よく眠れる事でスイッチのオンオフが入りやすくなると言われています！



### 株式会社 テイクオー

代表取締役 萩原早苗  
Tel.047-325-2000 Fax.047-325-2000  
〒272-0033 千葉県市川市市川南2-4-12市川ガーデンア512

### 株式会社 市原商店

代表取締役 今泉治武  
Tel.077-558-0834 Fax.077-558-0885  
〒520-3004 滋賀県栗東市上砥山2096

### ベルテック 株式会社

代表取締役 竹下晋二  
Tel.06-6991-9875 Fax.06-6991-9876  
〒570-0044 大阪府守口市南寺方南通3-11-10

### 株式会社 三和メック

代表取締役 天野公夫  
Tel.028-645-2741 Fax.028-645-2413  
〒321-0105 栃木県宇都宮市横田新町18-6

### 北海飼料販売 株式会社

代表取締役 勢戸俊雄  
Tel.077-558-2468 Fax.077-558-2001  
〒520-3004 滋賀県栗東市上砥山906-1  
※2022年1月住所が変更する予定です

### 株式会社 タイワ

代表取締役 長谷川和宏  
Tel.0575-24-7111 Fax.0575-24-7110  
〒501-3822 岐阜県関市市平賀811  
E-mail horsseshoe@taiwa-co.com

### 株式会社 渡辺商店

代表取締役 渡邊義昌  
Tel.03-3463-7661 Fax.03-3463-2715  
〒153-0042 東京都目黒区青葉台3-6-12

## ◆ 地方競馬の馬主になりたい

### 地方競馬全国協会からのご案内

「地方競馬の馬主になりたい!」という方は、地方競馬全国協会までご連絡ください。  
地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。  
インターネット「地方競馬 馬主」で検索。

地方競馬 馬主

検索

または、地方競馬の馬主情報については、地方競馬サイト

[http://www.keiba.go.jp/association/owner\\_faq.html](http://www.keiba.go.jp/association/owner_faq.html)でもご覧いただけます。

〔問合せ先〕 担当：地方競馬全国協会 審査部 登録課 電話 03-6441-3370 (平日 9時30分～17時30分)

## ◆ 装蹄師として馬(競馬・乗馬)に

### かかわりませんか!

令和5年度の2級認定装蹄師講習会(約1年間の全寮制)の講習生の募集を行います。

試験等詳しくは決まり次第、令和4年4月以降に本会のホームページに掲載いたしますのでご覧ください。

※令和4年度の講習生募集については、試験を行った結果、定員に達したため終了しておりますのでご了承ください。

### お問合せ先

公益社団法人日本装蹄協会  
装蹄教育センター

〒320-0851

栃木県宇都宮市鶴田町1829-2

☎ 028-648-0007 担当 山内

日本装蹄協会

検索

## ◆ 競走馬育成協会人事異動

### 【退任】

総務部長 小沼 秀樹  
業務部長 吉田 年伸

### 【就任】

総務部長 太田 啓  
業務部長 守山 秀和  
事業推進部長 後藤 博英

※令和3年度 公益社団法人競走馬育成協会組織規程の一部改正(R3.2/12)により

### 【組織規程 第2条】

旧	新
(1) 総務部	→ (1) 総務部
(2) 業務部	→ (2) 業務部
	→ (3) 事業推進部

## ◆ ホームページのご案内

### 【競走馬育成協会】

毎週育成技術表彰対象会員情報を掲載しています。他、各種事業内容等掲載されておりますのでご活用ください。



### 【BOKUJOB】

生産・育成牧場就業応援のためのサイトを掲載しておりますのでご活用ください。



いくせい

2021 59号

発行日 令和3年10月1日

発行 公益社団法人 競走馬育成協会

〒105-0004 東京都港区新橋4-5-4

日本中央競馬会新橋分館4階

TEL. 03(6809)1821

FAX. 03(6809)1822

E-mail: kgj00522@nifty.ne.jp

URL: <http://www.ttda.or.jp>

編集責任者 佐藤光信

制作・印刷 西谷印刷株式会社

